

氏名	ENDJANG KUSWIAR (エンジャン クスウィアル)	
現職	桑栽培チーフカウンターパート (センター)	
最終学歴・専攻分野	GADJAH MADA大学, 材木管理	
日本での研修期間	1980年5月30日～1980年11月28日	
日本での研修はあなたの業務に	日本での研修期間は	
A. 非常に役立った	A. ちょうど良かった	
B. かなり役立った	B. 長すぎた ( 日程度がよい )	
C. どちらともいえない	C. 短かすぎた ( 1年程度がよい )	
D. 役立たなかった		
あなたが受けた研修の指導教官名	岩田 益 ほか7名 ( 蚕試九州支場 )	
研修内容 ( 具体的に )	主として桑栽培全般, 他に蚕飼育, 病理, 土壌肥料の実習と講義	
現在行なっている業務内容 ( 具体的に研修内容と比較しながら述べて下さい。 )	<p>桑栽培セクションのチーフカウンターパートとして</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・桑園管理全般, ( Bili-Bili と Pakatto, 又 ha )</li> <li>・開発試験の桑品種選抜, 尿素の施用効果, 増殖法, 年間収穫体系など</li> <li>・普及員, 農民訓練とそのテキストの作成</li> <li>・パイロットユニットでの技術演示</li> </ul>	
研修で特に良かったと思う点を挙げて下さい。	・講義と実習を繰り返し指導されたこと。とくに桑育種の講義と実習が興味深かった。	
研修中当面した困難や問題点等を挙げて下さい。	・言葉 ( とくに技術用語 ), ・実習時間が長かった。・実習器具の取扱い方 ( 器具や薬品が日本語で書かれてあり, 理解しにくかった )	
その他、研修全般について意見があれば書いて下さい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農家の現場見学</li> <li>・礼儀正しい生活習慣</li> </ul>	

氏名	NOER RASYID(ノル ランッド)	
現職	桑栽培チーフカウンターパート(副センター)	
最終学歴・専攻分野	農業高校(SPMA)	
日本での研修期間	1978年3月~78年10月	
	日本での研修はあなたの業務に	日本での研修期間は
	A. 非常に役立った B. かなり役立った C. どちらともいえない D. 役立たなかった	A. ちょうど良かった B. 長すぎた(日程度がよい) C. 短かすぎた(1年程度がよい)
あなたが受けた研修の指導教官名	岩田 益 ほか7名 (蚕試九州支場)	
研修内容(具体的に)	主として桑栽培法全般, 他に土壌肥料, 病理, 蚕飼育実習	
現在行なっている業務内容(具体的に研修内容と比較しながら述べて下さい。)	サブセンターの桑園一般管理 センター開発技術の実証試験(桑栽培) 技術普及員及び農民の訓練( # ) パイロットユニットでの技術演示( # )	
研修で特に良かったと思う点を挙げて下さい。	桑園管理作業の計画と実行とくに機械による作業は現在の主要業務(桑園管理)を行なう上で有益であった。	
研修中当面した困難や問題点を挙げて下さい。	言葉の問題 最初は研修時間が長すぎて大変だった。(現地と異なるため)	
その他、研修全般について意見があれば書いて下さい。	食べものに馴れなかったこと。宿舍が遠すぎたこと。	

氏名	MUNASSAR SIMBUNG (ムナッサル シンブン)	
現職	桑栽培カウンターパート (センター)	
最終学歴・専攻分野	普通高校 (現在短大 S. T. I. A 在学中)	
日本での研修期間	1981年5月6日～81年11月8日	
日本での研修はあなたの業務に	日本での研修期間は	
A. 非常に役立った	A. ちょうど良かった	
B. かなり役立った	B. 長すぎた ( 日程度がよい)	
C. どちらともいえない	C. 短かすぎた ( 1年程度がよい)	
D. 役立たなかった		
あなたが受けた研修の指導教官名		
小野松治 ほか 6 名 ( 蚕試栽桑部 )		
研修内容 ( 具体的に )		
桑栽培, 桑園造成, 桑品種, 農業機械, 桑生理, 生態 土壌調査方法, 肥料		
現在行なっている業務内容 ( 具体的に研修内容と比較しながら述べて下さい。)		
Malino 桑園の造成, 開発試験 ( 株下げ樹勢更新, 根刈と中刈の比較, 植付距離, 収穫体系 ) 桑園管理一般 ( 分担 Pakatto 桑園 )		
研修で特に良かったと思う点を挙げて下さい。		
桑園管理作業, 計画性について研修したこと。		
研修中当面した困難や問題点等を挙げて下さい。		
日本の字, 教科書, 食べもの ( 豚肉が混入しているものが多い )		
その他、研修全般について意見があれば書いて下さい。		
計画が時々変更になった。また、実習の前の説明が足りず理解できないこともあった。 研修中の旅行日が少し多すぎた。		

氏名	Iyus Ramlan Ackub	
現職	蚕飼育(センター), 室長(チーフ), カウンターパート	
最終学歴・専攻分野	林業高等学校・林業	
日本での研修期間	農林中部支場 1977年2月11日～77年9月22日	
日本での研修はあなたの業務に		日本での研修期間は
A. 非常に役立った B. かなり役立った C. どちらともいえない D. 役立たなかった		A. ちょうど良かった B. 長すぎた( 日程度がよい) C. 短かすぎた( 1年程度がよい)
あなたが受けた研修の指導教官名		
石家支場長, 片桐栽桑室長, 栗林養蚕室長, 高橋蚕品種室長, 日向土肥室長, 市岡技官(病理)ほか		
研修内容(具体的に)		
蚕飼育, 栽桑, 蚕品種改良, 病理, 土壌肥料, 等の実習と講義		
現在行なっている業務内容(具体的に研修内容と比較しながら述べて下さい。)		
蚕飼育の技術開発, 実証試験 アシスタント その他技術職員の訓練 パイロットユニットの演示計画, 指導		
研修で特に良かったと思う点を挙げて下さい。		
1. 研修計画が綿密で能率的であり, 整備された研修資料が与えられた。 2. JICA や中部支場の関係者が公私にわたり良く面倒を見てくれた。		
研修中当面した困難や問題点等を挙げて下さい。		
言葉の問題で困った。日本語がもっとできたら研修の効果が更に上ったと思う。		
その他、研修全般について意見があれば書いて下さい。		
1. 研修が総合的に行なわれ, 広く勉強できたが, もう一度蚕飼育を重点に研修を受けたい。 2. 日本で習得した技術を, インドネシアで応用する努力をしている。		

氏名	Baharuddin Adam	
現職	蚕飼育(サブセンター), チーフ, カウンターパート	
最終学歴・専攻分野	高等学校・普通科	
日本での研修期間	農林中部支場1977年2月11日~77年9月22日	
日本での研修はあなたの業務に		日本での研修期間は
A. 非常に役立った B. かなり役立った C. どちらともいえない D. 役立たなかった		A. ちょうど良かった B. 長すぎた( 日程度がよい) C. 短かすぎた( 年程度がよい)
あなたが受けた研修の指導教官名		
石家支場長, 片桐栽桑室長, 栗林養蚕室長, 高橋蚕品種室長, 日向土肥室長, 市岡技官(病理)ほか		
研修内容(具体的に)		
蚕飼育, 栽桑, 蚕品種改良, 病理, 土壌肥料等の実習と講義		
現在行なっている業務内容(具体的に研修内容と比較しながら述べて下さい。)		
蚕飼育の現地適用試験 アシスタントや技術職員の訓練 パイロットユニットの運營業務		
研修で特に良かったと思う点を挙げて下さい。		
1. 見学, 研修旅行で新技術など, 生きた勉強ができた。 2. 日本人の親切心にうたれた。		
研修中当面した困難や問題点等を挙げて下さい。		
言葉の問題で困った。 初め大変寒くて困った。		
その他, 研修全般について意見があれば書いて下さい。		

氏名	Bambang Hartoko	
現職	蚕飼育(センター)カウンターパート	
最終学歴・専攻分野	農業大学・食品化学	
日本での研修期間	農林蚕試養蚕部筑波 1981年5月14日～81年11月4日	
日本での研修はあなたの業務に	日本での研修期間は	
A. 非常に役立った	A. ちょうど良かった	
B. かなり役立った	B. 長すぎた( 日程度がよい)	
C. どちらともいえない	C. 短かすぎた( 1年程度がよい)	
D. 役立たなかった		
あなたが受けた研修の指導教官名	養蚕部： 石川部長，渡辺室長，室賀室長，上田室長，荘野室長，ほか各部の担当教官	
研修内容(具体的に)	蚕飼育の実習と講義 栽桑，蚕品種改良，病理，土壤肥料等の講義	
現在行なっている業務内容(具体的に研修内容と比較しながら述べて下さい。)	蚕飼育の技術開発，実証試験 アシスタントや技術職員の訓練 パイロットユニットの演示計画，指導	
研修で特に良かったと思う点を挙げて下さい。	1. 研修中に作業服など現物支給は助かった。 2. 宿泊施設が完備し環境がよかった。 3. 日本の先生は，実習，仕事を進んで研修生と一緒にされ，感心した。	
研修中当面した困難や問題点等を挙げて下さい。	1. 日本語は勉強したが，先生が難解な言葉を使われ理解しにくい。 2. 教材の中に，漢字のものが多く全くわからなかった。	
その他、研修全般について意見があれば書いて下さい。	1. 日本の技術は最高で，インドネシアの技術は最低で開きが大きすぎる。 2. 1週間に土，日曜と2日間の休みは多い。 3. もう一度，日本で研修を受けたい。	

氏名	Wariso Partodinomo	
現職	蚕飼育(センター), カウンターパート	
最終学歴・専攻分野	大学・生物学	
日本での研修期間	農林蚕試 養蚕部(筑波) 1981年5月14日~81年11月4日	
日本での研修はあなたの業務に		日本での研修期間は
A. 非常に役立った B. かなり役立った C. どちらともいえない D. 役立たなかった		A. ちょうど良かった B. 長すぎた( 日程度がよい) C. 短かすぎた( 1年程度がよい)
あなたが受けた研修の指導教官名		
養蚕部: 石川部長, 渡辺室長, 室賀室長, 上田室長, 荘野室長, ほか各部の担当教官		
研修内容(具体的に)		
蚕飼育の実習と講義 栽桑, 蚕品種改良, 病理, 土壌肥料等の講義		
現在行なっている業務内容(具体的に研修内容と比較しながら述べて下さい。)		
蚕飼育の技術開発, 実証試験 アシスタントや技術職員の訓練 パイロットユニットの演示計画, 指導		
研修で特に良かったと思う点を挙げて下さい。		
1. 資料提供を受け勉強しやすかった。 2. 講義だけでなく実習もやり勉強になった。 3. 研修旅行は楽しく, 農家現場や地方試験場を見て勉強になった。		
研修中当面した困難や問題点等を挙げて下さい。		
1. 日常の日本語は理解できても早口で言われるとわからない。 2. 初めは食事にもなじめなかった。		
その他、研修全般について意見があれば書いて下さい。		
1. 研修旅行は大変良いが, 飼育中にあると研修が中断されて惜しい。飼育期間の前後が望ましい。 2. いろいろな機械が高度すぎて難しい。 3. もう一度, 日本で研修を受けたい。		

氏名	Hatta Madjid	
現職	病害虫, チーフカウンターパート	
最終学歴・専攻分野	大学中退 農学(昆虫)	
日本での研修期間	昭和54年3月2日~54年11月2日	
日本での研修はあなたの業務に		日本での研修期間は
A. 非常に役立った B. かなり役立った C. どちらともいえない D. 役立たなかった		A. ちょうど良かった B. 長すぎた( 日程度がよい) C. 短かすぎた( 1年程度がよい)
あなたが受けた研修の指導教官名 荒武義信, 池田 豊(農林水産省蚕糸試験場九州支場)		
研修内容(具体的に) 養蚕一般と蚕桑病害虫		
現在行なっている業務内容(具体的に研修内容と比較しながら述べて下さい。) 1)現地ですぐ入手可能な殺菌剤を用いた蚕体消毒剤の開発 2)蚕病の発生病消長調査 3)病蚕の診断		
研修で特に良かったと思う点を挙げて下さい。 日本人の勤勉さと責任感に接したこと		
研修中当面した困難や問題点を挙げて下さい。 言葉, 特に専門用語の修得が難しかった。		
その他、研修全般について意見があれば書いて下さい。 日本での研修に大変満足しており、関係各位に感謝する。		



氏名	Achmad Anwar	
現職	病害虫 カウンターパート	
最終学歴・専攻分野	大学卒 農学(昆虫)	
日本での研修期間	昭和55年5月29日～55年11月28日	
	日本での研修はあなたの業務に	日本での研修期間は
	A. 非常に役立った B. かなり役立った C. どちらともいえない D. 役立たなかった	A. ちょうど良かった B. 長すぎた( 日程度がよい) C. 短かすぎた( 8ヵ月程度がよい)
	あなたが受けた研修の指導教官名 荒武義信, 石島 嶺	
	研修内容(具体的に) 養蚕一般と蚕桑病害虫	
	現在行なっている業務内容(具体的に研修内容と比較しながら述べて下さい。) 1)桑園通用農薬のスクリーング 2)主要害虫(メイガ, クワシロカイガラムシ, コナカイガラムシ)の現地適応技術開発試験 3)主要害虫カミキリの生活史調査 4)桑病調査	
	研修で特に良かったと思う点を挙げて下さい。 日本人の勤勉さと責任感に接したこと	
	研修中当面した困難や問題点等を挙げて下さい。 1)言葉, 特に専門用語の修得が難しかった。 2)英訳のものが望まれた。	
	その他、研修全般について意見があれば書いて下さい。 桑害虫の研修が不足であったので現在業務担当しながら苦慮している	



氏名	Lukman Amry Kurang	
現職	センター 蚕種製造 カンターパート	
最終学歴・専攻分野	高校 農業	
日本での研修期間	1978年3月10日～1978年10月31日	
日本での研修はあなたの業務に		日本での研修期間は
A. 非常に役立った B. かなり役立った C. どちらともいえない D. 役立たなかった		A. ちょうど良かった B. 長すぎた( 日程度がよい) C. 短かすぎた( 1年程度がよい)
あなたが受けた研修の指導教官名		
農林水産省蚕糸試験場九州支場, 蚕品種改良研究室, 東 嘉昭		
研修内容(具体的に)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・原種の飼育法</li> <li>・蚕品種の育成</li> <li>・蚕種製造</li> <li>・蚕種の保護法</li> <li>・微粒子病検査法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>その他・病理</li> <li>・桑栽培</li> <li>・土じょう肥料</li> </ul>	<p style="text-align: center;">以上の講義と実習</p>
現在行なっている業務内容(具体的に研修内容と比較しながら述べて下さい。)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・原種の飼育</li> <li>◎蚕品種の育成 主に担当</li> <li>・蚕種製造</li> <li>・蚕種の保護</li> <li>・蚕種の配布</li> <li>・微粒子病検査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アシスタント, 技術職員の訓練</li> <li>・掃立計画の実施と運営</li> <li>・蚕種製造計画の実施と運営</li> </ul>	
研修で特に良かったと思う点を挙げて下さい。		
蚕種製造, 微粒子病検査の講義と実習を繰り返し実施したこと。		
研修中当面した困難や問題点等を挙げて下さい。		
日本のことば。実習時間が長く, 最初はつらかった。		
その他、研修全般について意見があれば書いて下さい。		
見学が参考になった。		

氏名	Mohamad Kusnan	
現職	センター蚕種製造，カンターパート	
最終学歴・専攻分野	JYOKJA大学	
日本での研修期間	1981年5月13日～1981年11月11日	
	日本での研修はあなたの業務に	日本での研修期間は
	A. 非常に役立った B. かなり役立った C. どちらともいえない D. 役立たなかった	A. ちょうど良かった B. 長すぎた( 日程度がよい) C. 短かすぎた( 年程度がよい)
あなたが受けた研修の指導教官名 農林水産省蚕糸試験場育種部，蚕品種改良研究室，渋川明郎		
研修内容(具体的に) ・原種の飼育法 ・蚕品種の育成 ・蚕種製造 ・蚕種の保護法 ・蚕具蚕体消毒法等 以上の講義と実習		
現在行なっている業務内容(具体的に研修内容と比較しながら述べて下さい。) ・原種の飼育 ・蚕品種の比較 ・蚕種製造 ・アシスタント，技術職員の訓練 ・掃立計画と実施運営 ・蚕種計画と実施運営 ◎蚕種の保護 } 主に担当 ◎蚕種の配布 ・微粒子病の検査		
研修で特に良かったと思う点を挙げて下さい。 ・蚕種製造の講義と実習で繰り返し実施したが，特に原種の飼育法実習が良かった。		
研修中当面した困難や問題点を挙げて下さい。 日本のことば，宗教の面で最初はつらかった。		
その他、研修全般について意見があれば書いて下さい。 日本人は優しい人達が多い，また親切で見学が参考になった。		

氏名	Bertha Sampe	
現職	センター, 蚕種製造, カンターパート	
最終学歴・専攻分野	HASANUDIN大学	
日本での研修期間	1981年5月13日~1981年11月11日	
日本での研修はあなたの業務に		日本での研修期間は
A. 非常に役立った B. かなり役立った C. どちらともいえない D. 役立たなかった		A. ちょうど良かった B. 長すぎた(日程度がよい) C. 短かすぎた(年程度がよい)
あなたが受けた研修の指導教官名 渋川明郎, 藤原 公 農林水産省蚕糸試験場, 育種部蚕品種改良研究室, 病理部微粒子病研究室,		
研修内容(具体的に) <ul style="list-style-type: none"> <li>・原蚕の飼育法</li> <li>・蚕品種の育成</li> <li>・蚕種製造</li> <li>・蚕種の保護</li> <li>・微粒子病検査法</li> <li>・蚕病等 以上の講義と実習</li> </ul>		
現在行なっている業務内容(具体的に研修内容と比較しながら述べて下さい。) <ul style="list-style-type: none"> <li>・原蚕の飼育</li> <li>・蚕品種の比較</li> <li>・蚕種製造</li> <li>・蚕種の保護</li> <li>◎微粒子病の検査 主に担当,</li> <li>・アシスタント, 技術職員の訓練</li> </ul>		
研修で特に良かったと思う点を挙げて下さい。 蚕種の講義と実習はもちろん, 微粒子病検査の講義と実習が繰り返し実施した事		
研修中当面した困難や問題点等を挙げて下さい。 日本語, 技術専門書の翻訳本を多くほしい。		
その他、研修全般について意見があれば書いて下さい。 日本は美しく日本人は優しい人達が多い, 蚕種製造関係の見学が参考になった。		





## Ⅱ 南スラウエシ蚕糸業の歴史と技術協力（森信行）

絹は中国で紀元前 3,000 年頃から使用され、紀元前 1,000 年頃には既に多種多様な絹織物が生産されて居た。

絹はその後シルクロードを通して遠く欧州まで運ばれていた事はあまりにも有名であるが、シルクロード（陸路）と竝んで海路（シルクルートと云った方が適切か）多くの国々へ交易された。日本へも 4 世紀頃、韓国から海路を経て持たられた。

東南アジアも中国と交易していたので、各地へ絹は最高の交易品として持ち込まれた事は事実であろう。南スラウエシでも絹は早くから交易品とし珍重がれていたが、養蚕製糸、絹織物の技術が中国から導入されたのは井関氏によれば 15 世紀明朝の宣徳時代（1426～30）にマンダル湾岸に伝わり定着したのが南スラウエシ絹業の起りとされている。従来南スラウエシの住民は絹を愛好し民族衣装として愛用し今日に及んでいる。絹織はマンダル湾 Majene 近くの Tinambung で今に到るまで継承され、マンダル織の中心的産地を形成している。

一方 Wajo 県 Sengkang 付近でも絹織が盛んであるがこの地方には中国の蚕糸技術が一旦印度に入り、ヒンズー教と共に当地方に伝わり、続いてイスラム教の発展で、アラビヤからイスラム教と共に絹織技術が伝えられたと云われ、その染色、デザインにはアラビア文化の影響を強く受けている。この他、Wajo 県下、Sidrap 県 Rappang 付近でも最も原始的ないざり織で絹織物が生産され、Ujung Pandang では更に進んだ織機で絹織物の生産が行なわれている。

勝又氏によればインドネシアの絹業会議（ISRI）は 1961 年 Bandung で初めて開催され、1966 年には第 4 回会議 Fogjakarta で開催された。

大学においても蚕糸に関する研究がこの頃開始された。これらには Bogor 農科大学、Bandung の Padjadjaran 大学工学部（technological institute）、Gadjah Mada 大学、北スマトラ大学等であった。

退役軍人の復員局（minister of the Department of Veteran and Demobilization affairs）は 1963 年製糸と機織、染色の工場を Bogor に建設することを決め 1968 年 8 月完成させた、これは復員軍人に職を与えるためのものであったが、繭生産が軌道に乗らず失敗した。その後森林労働者へ農閑期の仕事として林業総局が取り上げ、現在の林総局長 Soedjarwo 氏はそれ以来今日までインドネシア蚕糸業の中心的役割に果している。

現在、インドネシア養蚕の生産地となっている Soppeng 地方で養蚕が発展したのは比較的最近で 1962 年から導入が始まり 1966 年には桑園面積は既に 1,500 ha に達したと云われている。絹織物の盛んな Sengkang へ生糸を供給することをねらって、農家が自発的に養蚕を開始したものである。政府はこの民間の積極的な動きに呼応して 1965 年頃から養蚕の指導を開始した。Soppeng への最初の桑苗は 1962 年普及関係者を通して Tajuncu 村の小学



校へ導入された由である。

1971年林業総局は林業試験場の支場を Soppeng 県 Tajuncu 村に設立し、やがて職員10名で稚蚕飼育、消毒等の技術の指導と蚕種の製造を実施した。稚蚕飼育については日本の群馬県下で研修を受けた技術者が群馬式の稚蚕飼育法（箱育）を指導しこの方法は Soppeng を中心に急速に普及した。南スラウエシでは1971年の生糸生産が138トンに達したと云われ全インドネシアの95.8%の生糸を生産した。然しながら1972年はインドネシアは大旱拔に襲われ、それと同時に微粒子病が大発生し、1973年に及んだ結果、南スラウエシの生糸生産は25トンまで激減するに到った。

スハルト大統領は南スラウエシ蚕糸業をこの打撃から立ち直らせるため、前述のように製糸工場と蚕種製造施設を建設すると共に自から現地へ赴き養蚕農家を激励した。インドネシア政府はこの窮状を打解し、養蚕技術に近代化して農民の福祉を向上するため日本政府に対し養蚕の技術協力を申し入れた。

インドネシアでは第二次大戦前 Java, Sumatra, Bali, Sulawesi 等でインドネシア人による小規模な養蚕が行なわれていたが、日本人が養蚕技術の指導に携わったのは、勝又氏によれば1925年頃僧門で有名な大谷光端師等が Java, Sumatra で、1932年には宮地（Miyaji）氏が、Sulawesi の Menade で養蚕指導が試みられたが、これらはいずれ数年ならずして終っている。第二次大戦で日本は Java 島では軍政で青年を集めて家蚕とエリ蚕の飼育を教えた、しかし南スラウエシでは絹業は禁止され綿織へと転換を強制された。これらは日本軍の敗退と共に消滅した。

戦後近代養蚕は石井氏等によって1953年日本から蚕種を輸入して Bandung でインドネシア人と共同で実施され1954年には Tjisarua へ移り1961年まで続けられた。1965年勝又氏は Colombo plan の Expert として初めてインドネシアへ派遣され2ケ年間主として Bogor の sericulture center と Lembang の蚕種製造所で養蚕技術協力に従事した。

インドネシアへの蚕糸技術の導入は上述の通りであり、これを大きく分けると多化性蚕を主として飼育していた時代と、多化性を全面的に禁止して2化性蚕を飼育した2時期に分けることが出来よう、また多化性の時代は中国から養蚕製糸絹織の技術が導入され南スラウエシに定着した技術導入の第1期と、その後多化性蚕の飼育を禁止した時期までの第2期に分けられよう、この第2期の終り頃には2化性蚕の飼育と近代養蚕技術の一部が導入された過度期があったとすることが出来よう、従って協力の準備段階を入れると9ケ年、R/D 後日本人専門家が派遣されて以来6年4ヶ月に及ぶ技術協力は、後期2化性蚕の本格的飼育技術の導入であり、前期を2期に分ければ第3期の養蚕技術導入と位置付けできよう。

X インドネシア養蚕開発計画報告書及び資料リスト

(本部収集分のみ：昭和58年2月現在)

1. 昭和49年8月：インドネシア国養蚕協力予備調査団報告書〔農(発)49-7〕
2. 昭和51年2月：インドネシア養蚕開発実施計画調査団報告書〔農林50-113〕
3. 1976年2月：THE IMPLEMENTATION PLAN FOR SERICULTURAL DEVELOPMENT IN INDONESIA〔AF50-114〕
4. 昭和51年10月：インドネシア養蚕開発事業実施計画報告書〔農林51-59〕
5. 1976年10月：SERICULTURAL DEVELOPMENT PROJECT IN INDONESIA FINAL STUDY REPORT No.1〔AF51-60〕
6. 同上 No.2〔AF51-60〕
7. 昭和51年12月：インドネシア養蚕開発実施計画調査団報告書〔農林51-96〕
8. 昭和52年10月：エロージョン防止対策調査報告書—インドネシア養蚕開発プロジェクト
9. 昭和53年6月：インドネシア養蚕開発計画巡回指導調査団報告書〔農開技JR-78-2〕
10. 1980年3月：PETUNJUK PRAKTIS CARA PENCEGAHAN DAN PEMBERANTASAN PENYAKIT ULAT SUTERA ( )
11. 昭和55年4月：昭和55年度タイ養蚕開発計画及びインドネシア養蚕開発計画巡回指導チーム報告書〔農開畜JR-80-35〕
12. 昭和55年4月：インドネシア養蚕開発計画機材供与品目一覧(昭和51年度～昭和54年度)〔農開畜JR-80-35〕
13. 1980年5月：PETUNJUK PEMULIAAN JENIS ULAT SUTERA ( )
14. 1980年5月：PETUNJUK PEMELIHARAAN ULAT BIBIT SUTERA ( )
15. 1980年5月：PETUNJUK PEMBIBITAN (PRODUKSI TELUR) ULAT SUTERA ( )
16. 1980年5月：PETUNJUK PENGAMATAN PEMELIHARAAN BERBAGAI JENIS ULAT SUTERA DI INDONESIA
17. 昭和55年7月：昭和55年度インドネシア養蚕開発計画—病害史防除—〔農開畜JR-80-35〕
18. 昭和55年12月：昭和55年度インドネシア養蚕開発計画総合報告書—蚕飼育—〔農開畜JR-80-55〕
19. 昭和56年2月：昭和55年インドネシア養蚕開発計画巡回指導チーム報告書〔農開畜JR-81-26〕

20. 昭和56年5月：インドネシア養蚕開発計画に係る給水施設補修工事の調査及び設計業務報告書
21. 昭和56年11月：パイロットユニット構成農家写真帳
22. 昭和56年12月：インドネシア養蚕開発計画専門家報告書〔農開畜JR-82-15〕  
（昭和55年度報一技術編一，桑害虫防除専門家報告書）
23. 1981年：PEDOMAN PERSUTERAAN ALAM（養蚕ハンドブック）
24. 昭和57年1月：昭和56年度インドネシア養蚕開発計画巡回指導チーム報告書  
〔農開畜JR-82-14〕
25. 1982年2月：LAPORAN HASIL PENGAMATAN KEGIATAN PENYULUHAN PERSUTERAAN ALAM DI SULAWESI SELATAN INDONESIA FEBRUARI 1982（ ）
26. 昭和57年7月：インドネシア養蚕開発計画専門家報告書  
一養蚕普及一〔農開畜JR-82-33〕
27. 1982年9月：INDONESIA-JAPAN SERICULTURAL DEVELOPMENT COOPERATION PROJECT IN SOUTH-SULAWESI（養蚕開発プロジェクトのパンフレット）
28. 1982年9月：(1) SOUTH SULAWESI SERICULTURAL PROMOTION PLAN, (2) PILOT UNIT OPERATION PLAN, (3) A MANUAL OF PEBRINE INSPECTION（インドネシア養蚕開発計画資料集）
29. 昭和57年10月：インドネシア養蚕開発計画エバリュエーションに係るコンサルタント  
役務提供による養蚕技術の普及状況調査報告書
30. 昭和58年2月：インドネシア養蚕開発計画昭和56年度年報  
一技術編一〔農開畜JR-83-6〕
31. 昭和58年2月：インドネシア養蚕開発計画専門家報告書  
「病虫害防除」，「桑害虫防除」，「土壌」〔農開畜JR-83-13〕
32. 昭和58年2月：PROYEK KERJASAMA INDONESIA-JEPANG DALAM PENGEMBANGAN PERSUTERAAN ALAM DI SULAWESI SELATAN  
〔農開畜JR-83-19〕（インドネシア養蚕開発計画蚕種製造）
33. インドネシア養蚕開発計画専門家報告書 桑栽培
34. " 蚕飼育
35. " 蚕種製造
36. " 病虫害防除
37. インドネシア養蚕開発計画総合報告書





